

木木是好日

きぎ・これ・こうじつ

都市部から地方へ移り住み、地域課題の解決やさらなる活性化のために活動する「地域おこし協力隊」。
日頃の取り組みの様子やその思いを、皆さんにお伝えします。

Vol. 3 「着任3カ月目、引き続きコツコツと」

「出材」に思いをつ

地域おこし協力隊3カ月目。だんだんと製材の依頼が増えてきました。このところ毎日、製材とその時に出る端材の片付けをしています。年末には木の駅かわねに出す材を近所の山で伐らせていただきました。もちろん太い部分は製材して使います。

いつも思うことなのですが、小規模な自伐林家にとっては、伐った木を出すことが一番の課題で、架線や重機が使えなければ、人力で引きずって出すのが現状です。木を出したいけれど、諦めて出せない方も多く、諦めています。一方、各地で簡易架線やウインチ（簡易集材機）などいろいろな工夫している例もあります。木の駅かわねは、小規模な自伐林家が出材できる取り組みです。これから長く継続していくためには多くの方の参加が必要で、木の利用と出材の両方を自分なりにもいろいろな研究していきたいと思っています。

いよいよ商品の試作へ

製材と並行して、川根本町の木を使った商品の試作も、いよいよ始めます。まずは、町内で作られている「インテリア茶箱」について、脚の部品を木工旋盤を使って作ります。ただ、すべてをひとりで行うのはとても時間がかかってしまうので、今後は興味のある地元の皆さんとグループを作って、楽しみながらやっていけたらと考えています。まずは、気軽に見ていただけるような説明会や体験会を開催しようと思えます。その前に、機械を使いやすくする作業台や仕組みを、しっかり作らないと……。やることは山積みですが、コツコツと木木是好日です。

遠い記憶の話

ふと思いついたのですが、小学校の低学年の頃なので今から40数年前、川根に来たことがありました。当時は神奈川に住んでいたのですが、母方の実家が清水にあり、夏休みに同世

代のいとこたちと大井川鐵道のSLに乗って、どこかの駅で降り、カブトムシを捕った記憶があります。他にも子どもがたくさんいて、虫カゴを渡され、カブトムシが簡単に捕れたので、今思えばそんなツアーだったのですね。ただ、木の知識もなく、夏休みに毎朝山に出掛けてやみくもにカブトムシを探していた子どもにとっては、SLに乗ったこととともにすごく楽しかった記憶として残っています。どこの駅で降りたのでしょうか？ またそんなツアーがあれば、今の子どもたちは喜ぶのではないのでしょうか。

● 鈴木 健二 すずき・けんじ

神奈川県逗子市出身。東京、静岡の石油販売会社に勤務したのち、個人で間伐と木工の仕事を開始。協力隊として、桑野山貯木場で製材・木工機械の管理と、地域の木材の利活用促進に向けた「木」や「森林」に携わる活動に取り組む。最近の関心は、古民家や農業のほか、少し昔の時代のくらしや道具など。前居住地は静岡市清水区。

